1. はじめに

自然体験や生活体験が減少している現代の子供達に対し、河川を遊び・学習の場として活用することを目的とした本川の楽校プロジェクトが全国各地で実施されている。「常願寺川水辺の楽校プロジェクト」も同様に登録有形文化財に指定されている本宮砂防堤に、常願寺川で交流し、遊び、学ぶをテーマに子供達に自然や文化、砂防などを学んでもらうことを目的としている。

今回の研究発表は、この「常願寺川水辺の楽校プロジェクト」の内容を踏まえて、大規模砂防堤の利活用方法について発表するものである。

2. 対象地域

本プロジェクトの対象地域は右図の通り、常願寺川を挟んで立山町立・小見小学校、大山町立・小見小学校の2つの小学校が接している。しかし、常願寺川及び右岸側の急傾斜に囲まれているため、両校合同による学習活動等の交流活動は行われていない。

常願寺川における諸活動においても、急傾斜に囲まれている立山町立小学校の生徒達のみでなく、小見小学校の生徒達も護岸とともに本宮寺川へ降りることが困難であるため、本宮砂防堤の下流側での活動等は実施されていない。また、国立立山少年自然の家が存在するが、同施設を訪れた団体の活動もよりエンターテイニングなスキーなどの山地における活動が主で、常願寺川における活動は行われていない。

3. 活動プログラム

本宮砂防堤周辺地域を活動の場として接する2小学校の生徒達などが、どのような活動を行えるかその内容を示す活動プログラムを作成した。この活動プログラムの概要は、平成12年度に「常願寺川水辺の楽校推進協議会」において提案・検討された内容をもとに内容が類似するものはとりまとめた内容整理して設けた。整理された各活動プログラムについて、以下の項目について推進協議会による協議及び両小学校の教職員などへのヒアリングにより内容をとりまとめた。

平成14年度から本格的に導入される「総合的な学習の時間」では、各学校が地域や生徒の実態などに応じて横断的・総合的な学習活動を行うものとされ、観察や調査実験などの体験的な学習を積極的に取り入れることが求められている。本プロジェクトの活動プログラムにおいても、生物、野鳥観察や水質・流れ調査などビオトープづくりを行うなどの体験的な学習の要素を含むものを含んでいる。また、学習の場としての要素以外にも、カヌーや野川になって川下りや子供達が興味を持ってとりくむために遊びの要素を含むのも取り入れている

表1 常願寺川水辺の楽校活動プログラム一覧

| 1 | ウォーキング・オリエンテーリング | 9 | レーザーサイクル船を作って競争しよう | 17 | 水や森の生態を学ぼう |
| 2 | 自然を生かした模擬ゲーム | 10 | あそぼう常願寺のなぞに挑戦学習 | 18 | ゴミに学ぶ |
| 3 | 江川遊び | 11 | 満を薄れて | 19 | 仲良くしてみよう |
| 4 | ゴムボート・カヌーで川下り | 12 | 水質を調べて | 20 | ビオトープづくり |
| 5 | 十字釣り | 13 | 活動を賢く | 21 | 自然エネルギー体験・野菜クッキング |
| 6 | 慎密な観察・植物園を・かんじき・| 14 | 生物監視 | 22 | 学生体大会 |
| 7 | 玉の操縦、鳥のレプリカを作ろう | 15 | 野鳥観察 | 23 | 安全学習 |
| 8 | かまくら・遊水池作り・氷の作り方 | 16 | 自然の楽しみを楽しもう |  |  |

図1 計画対象地域

図2 活動プログラムの作成フロー
各活動プログラムについて、①活動による子供達への効果などの「活動の目的」、②具体的な「活動内容」、③想定される「参加者と主催者」、④必要な事前準備や活動時の中止、配慮事項などの「主催者の留意事項」、⑤活動を実施箇所や「活動エリア及びイメージ」、⑥活動の実施のために整備が必要となる「対応施設」、⑦活動時に主催者や参加者が準備する「備品・その他」、⑧円滑に活動するための「課題」について検討・整理を行い、活動を実施する団体等が本活動プログラムをもとに具体的に活動を実施できるものとしている。

図－3 活動プログラム構想

4. 安全対策

本プロジェクトでは砂防河川である常願寺川にて子供達が様々な活動を実施することとなるため、安全対策が重要な課題となる。安全対策の検討に際して始めに対象地域での利用者を「両小学校の生徒」、「少年自然の家訪問の団体」、「当地域以外の団体」、「地元住民」、「一般観光客」と想定し各々の利用形態、及び利用形態毎の責任者を設定した。これらは利益を有する必要となる事前準備や活動時の注意事項を整備した。

本プロジェクトによる安全管理の重要性としては「水辺の楽校」の目的からすると子供達が自由に河川に入ることの望ましいが、両小学校と連携をとり、「子供達だけでは川へ入らない」ことを周知させることとした。また事故防止などのために必要となる施設などを検討しとりまとめた。

5. 施設整備構想

本プロジェクトにて整備を行う施設について、活動プログラムの対応施設及び活動エリアイメージを整理し、全ての活動プログラムを実施するために必要となる施設を検討し、推進協議会の協議までに両小学校教職員等へのヒアリング等を実施し内容をとりまとめた。

6. 運営体制

活動プログラムや施設整備の検討を行ってきた「常願寺川水辺の楽校推進協議会」は、対象地域の自治会長、小学校校長、町議会議員、立山林事務所長、立山砂防工事事務所長により構成されている。

本協議会を活動プログラムを実施するに収集をかける活動に活動を実施することの妨げとなることが考えられる。そのため、今後、協議会の下にワーキングを設置し、協議会では年間事業予定など大まかな骨組みを決定し、ワーキングが実際の活動プログラムや段階時点の維持管理など具体的な作業を主導的に行っていくことを検討している。このワーキングは教職員や住民などにより構成され、活動内容などにより複数団体を設置することを検討している。

また、施設完成後の清掃やゴミ拾い等の軽微な管理についてもこのワーキングによることを検討している。

7. おわりに

水辺の楽校を活発的に推進してゆくには、小学校や自治会などの団体が積極的に活動してゆくことが重要であるため、地域住民を含むプロジェクトに取り組むかが成果の可否となると考える。そのため、今後施設の整備を図ってゆくとともに、上記のワーキングを含む体制づくりが今後の課題である。